

(1) 2023(令和5)年10月19日発行

<地域社会の経済発展(米山)月間>

国際ロータリー 第2500地区 第4分區
遠軽ロータリークラブ
THE ROTARY CLUB OF ENGARU, AREA 4, RID2500

第3091回例会記録

日時: 2023年10月12日(木)12:30~

会場: ホテルサンシャイン2F

司会: 上田 稔 副SAA

★開 会 点 鐘: 高橋 義昭 会長

★国 歌: -

★R ソ ン グ: 我らの生業

★四つのテスト: -



世界に希望を生み出そう

2023-2024年度 国際ロータリーテーマ

2023~2024 Weekly Report No.14



10月 夜間例会
19日 遠軽青年会議所
(木) 18:00~ と交流・合同例会

10月 青少年奉仕委員会
26日 ライラセミナー報告
(木) 12:30~

鶴見 誠一郎 RID2500 ガバナーズローガン: 今こそ変わる勇気を! さあ、一歩前へ
高橋 義昭 遠軽ロータリークラブ会長スローガン: 継続は力なり

会長報告 高橋 義昭 会長

8日はRI第2500地区の地区大会が紋別の地で開催されました。地区出向の皆さんは7日と8日の二日間、遠軽RCの皆さんには8日の一日長時間大変お疲れ様でした(①、②)。大会は紋別市民会館にて約千名の登録で開催されました。懇親会は3会場に分かれての開催で、鶴見ガバナーも大忙しでしたが(③)大盛りのカニなどが振る舞われ盛会のうちに終了しております。詳細はクラブフォーラムで報告します。

10月24日は「世界ポリオデー」です。そこで本日はポリオについて少しお話をさせていただきます。「ポリオ」という病気はポリオウイルスが原因となる感染症で急性灰白(かいはい)髄炎(ずいえん)または脊髄性(せきずいせい)小児麻痺とも呼ばれます。病名の通り小さな子ども(乳幼児)がかかることが多い病気で、弛緩(しかん)性(せい)麻痺と呼ばれる手足がだらんとする麻痺症状を特徴とします。弛緩性麻痺を起こすのはポリオウイルスに感染した人の内1%以下といわれていますが、麻痺が現れると回復せずに一生残ってしまうことも多いようです。乳幼児に比べて少ないものの成人が感染することもあり、成人では重症化しやすく、15~30%の人が死に至る恐ろしい病気です。ポリオにはワクチンがあり、ワクチン接種によりほとんどの人が十分な抗体を得ることができます。

世界からポリオを根絶しない限り、今後10年以内に世界での年間発症数は20万件に上ると予想されています。ポリオの常在国はわずか2カ国ですが、ポリオの発症がどこかで起きている限り感染の危険は世界中の子どもたちに及ぶことになります。

日本では2012年以降、不活性ポリオワクチンが定期接種の対象となっています。2023年3月までは生後3ヶ月から公費でのワクチン接種開始時期でしたが、4月からは生後2ヶ月から接種できるようになっているそうです。まだまだ原因、症状、検査・診断、治療、予防などありますが今日はこの程度でポリオのについて理解を深めて頂ければ幸いです。

幹事報告 大西 孝弘 幹事

1. 遠軽RCのポロシャツ作成について

夏に適したクラブの着衣が必要とのご意見で、先月の理事会にて会の負担によりポロシャツ作成を決定。管理は会員各々としします。回覧のサイズ表にご自身のサイズの記入をお願い致します。



本日のプログラム クラブフォーラム 【地区大会1日目報告】

藤田 礼三 地区青少年委員長

10月7日(土)、16時からRI会長代理・ガバナー・地区役員懇談会。RI会長代理 橋岡久太郎氏(第2790地区=千葉県)から、RI会長のメッセージが伝達され、その後、2日目に提案される特別委員会報告、地区決算報告等を審議し、採択されました。

18時から、RI会長代理ご夫妻と鶴見ガバナーご夫妻、そして地区役員その他、姉妹地区第3590地区総裁含め8名(大韓民国)、友好地区第3330地区ガバナー含め7名(タイ王国)が出席してRI会長代理歓迎晩さん会が開かれました。

なお、第3590地区との青少年交流についてはガバナーが継続協議することになっています。

【文中の○数字は写真の番号】

【地区大会2日目報告】

高橋 義昭 会長

RIテーマ「世界に希望を生み出そう」のもと、地区スローガン「今こそ変わる勇気を！さあ、一歩前へ」と地区大会が紋別市民会館にて開催されました。

オープニングセレモニー（映像）後、開会宣言で式次第が進み、鶴見ガバナー挨拶。RI会長代理挨拶ではゴードン R. マッキナリーRI会長メッセージが伝えられました。

今年度は世界に希望を生み出すための会長は三点に焦点を当てています。①メンタルヘルスの優先はロータリーと接するすべての人が思いやり、尊重、尊厳をもって扱われるような居心地のよい環境をクラブでつくり出すこと。②バーチャル交換を通じた平和構築はコロナ禍のときに学んだことを生かして、より多くのプログラム、行事、活動にバーチャルの要素を取り入れることを地区に奨励しています。テクノロジーを活用してつながりを築くことで、より多くの人にロータリーを体験する機会を提供できます。③女兒のエンパワメントは女兒の健康、福祉、教育、経済的安定、自己決定を向上させる活動続けることを会員に奨励しています。

参加者の基盤を広げるロータリーのビジョンを実現する為の行動計画とPeople of Action「世界を変える行動人」について、①より大きなインパクトをもたらす・ポリオ撲滅・ロータリー財団への寄付を増やし、2025年までに20億2,500万ドルの恒久基金を築く②参加者の基盤を広げる・会員基盤と参加者の基盤を広げ、多様性、公平さ、インクルージョン（開放性）を育むRIの真剣な公約DEI：多様性＝あらゆる背景、文化、経験アイデンティティ、自分が自分であること自分が他社や社会に認められる感覚を持つ人々を歓迎する。公平さ＝一人ひとりが成功するために必要なリソース、機会、ネットワーク、サポートを利用できるようにする。開放性＝自分が大切にされ尊重されているとすべての人が感じ、開放的な文化を造ります、等々と強調されました。

ロータリーの会員構成の女性会員の割合がRIでは24.94%、現状日本では7.7%、第2500地区では5.5%とまだまだ低い現状にあります。

会員の定着率について、会員にとっての「心地よさ」と「配慮」が会員満足度を高める唯一かつ最大の方法であり、クラブへの会員の積極的参加を保つ最善のツールです。

RI現況報告ですが、125カ国以上で1年間に推定35万件的ポリオ感染があった中、ロータリーは1985年にポリオプラスを立ち上げ、ポリオの発症数は99.9%以上減少し、2000万人以上が身体麻痺から救われたとされています。ロータリーは、約30億人の子どもたちにポリオの予防接種を行い、世界ポリオ根絶活動に26億ドル以上を寄付してきました。

またウクライナ支援に対しては1500万ドル以上の寄付がロータリー財団に寄せられています。

そして記念事業が紋別市に贈呈され、午前の部終了。

午後の部は9名の米山記念奨学生紹介、地区大会特別委員会報告、地区決算報告、そして地区大会決議案の提案と採決がされました。そして各種表彰が行われ、記念講演が行われ、ガバナーエレクト・ガバナーノミニ紹介、次期地区大会ホストクラブ挨拶が行われ閉会されました。

懇親会は紋別市民会館、ホテルオホーツクパレス、紋別プリンスホテル③の3カ所で開催されました。海産物の紋別らしく大量のカニで参加クラブのメンバーはお腹を満たしておりました。

【記念講演について報告】

大西 孝弘 幹事

北海道銀行頭取 兼間裕二（かねま ゆうじ）様の演題は「GXが実現する北海道の未来」。GX（グリーントランスフォーメーション）は、まだ北海道ではなじみが薄い言葉ですが「北海道の未来を変えるだろう」と言っていました。

政府が2020年、2050年までの温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルの実現を目指したことを宣言しました。カーボンニュートラルとは二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすること。GXとは脱炭素社会を目指す取り組みを通じて経済社会システムを変革させ持続可能な成長を目指すことと定義されています。

GXは環境問題の課題解決だけにとどまらず、取り組みを進める中で社会を変えていくという、カーボンニュートラルを包括した持続可能な未来への成長戦略と捉え、化石燃料から再生可能エネルギーへ転換し、温室効果ガスの排出量削減と産業の競争力向上の両立を目指そうと政府が推進していることがGX。

では、なぜ北海道銀行の頭取がこのGXについてご講演したのか？ 2023年6月23日に設立した21機関で構成する産学官金のコンソーシアム（共同事業体）【Team Sapporo-Hokkaido】の事務局を道内の金融機関として北洋・道銀の両行が担っているとのこと。このチームサッポロ北海道とは、北海道の国内随一の再生可能エネルギーのポテンシャルを最大限に活用し、世界中からGXに関する情報・人材・資金が北海道・札幌に集積するアジア・世界の金融センターの実現に向けて設立されたものです。これは政府が日本のGX戦略に向け、国内において今後10年で150兆円を超える官民投資が必要とされる中、北海道は日本でも随一の再生可能エネルギーを持つ最重要地域であり、この内30～40兆円を呼び込むことを目指していると説明されていました。

今までは、道内において大規模電力を消費する企業が多かったが、千歳市に半導体工場ラピダスが建設されることにより、北海道全体の電力約20%前後がこの工場1つで使用され、半導体も100%再生可能エネルギーで作られた製品でなければ、ブラック半導体と言われ世界では購入されない。

その他にも2030年には航空燃料の10%にバイオマスや廃油、ゴミ等を原材料とした持続可能燃料SAFが供給できる施設がないと国際便は利用されない。

北海道では再生可能エネルギーの可能性が大きく、例として、道内の社有林をもつ企業が管理費2,000万円程、100%経費負担が森林をクレジット化して販売すると、森林管理費もコスト分が収入となり未来永劫持続可能な森林管理企業となる。

まだまだ先のことを考えていましたが、この1年でガラリと変わった印象で、銀行は脱炭素化の取り組みについて第三者機関の評価書をもとに融資を行う。海外の投資家はこの評価書がある・無いでの企業価値を判断する。この流れはすでに北海道の企業にも来ていて、この評価書に取り組むことが、新規採用にも影響がでる。学生はGXの勉強してるので、そのような企業に人材が集まる。

大手スパーでも取引先やサプライチェーンにも脱炭素化を求められることがすでに始まっている。

大企業は子会社も含め、取引先へのカーボンニュートラルへの取り組みが求められ、今後は中小企業、個人にも脱炭素税なるものが導入されるのではないだろうか、と結ばれていました。

ニコニコ BOX 益井 伸也 親睦活動委員長

吉川 紘君 誕生日 5,000円

山田 荘一君 祥月命日 5,000円

2023-24年度合計 218,000円

☆閉会点鐘:高橋義昭会長☆今号会報担当:棚橋 忠委員

2023-24_14th-02

出席報告	例会日	会員数	出席計算 会員数	出席者数	メイク アップ	出席率	無断欠席	編集・発行:メディア委員会
須藤順一	10月 5日	43	41	32	1	82.5%		委員長:東海林勉 副委員長:佐藤直也
出席委員長	10月12日	43	41	26		65.0%		委員:石井朋子 植村涼子 奥山雅行 棚橋 忠 山田荘一

2023-2024年度 国際ロータリー

会長:ゴードン R.マッキナリー(スコットランド)

第2500地区ガバナー:鶴見 誠一郎(紋別港RC)

第4分区分ガバナー補佐:伊藤 晴之(紋別RC)

遠軽ロータリークラブ www.engaru-rc.com

会長:高橋義昭 副会長:木村一則

会長エレクト:乾 淳 幹事:大西孝弘

会計:島田光隆 S A A:加藤幸徳

直前会長:高井一博 事務局員:岡本奈津美

◇1959年9月12日創立/1959年11月7日認証

【事務局】〒099-0415 北海道紋別郡遠軽町岩見通南1丁目 遠軽商工会議所内

Tel 0158-42-5201 Fax 42-5134 E-mail:info@engaru-rc.com

【例会場/日】北海道紋別郡遠軽町大通北1丁目 ホテルサンシャイン Tel 0158-

42-1151 毎週木曜12:30～13:30 *第3木曜日は夜間例会 18:00～(19:00)



Rotary

